
貧しかったけど幸せだった昭和30年代初めの頃のわが家の一日

アスカルの飼い主

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貧しかつたけど幸せだった昭和30年代初めの頃のわが家の一日

【Zコード】

Z2801C

【作者名】

アスカルの飼い主

【あらすじ】

私の子供の頃の実話です。私は、今になって振り返ると貧しかつたらしいのですが、当時は本当に幸せでした。これは一重に父母兄のおかげだと思います。感謝の意味をこめてこのお話をします。

その1 その2

我が家の一 日 その1

私がまだ幼稚園に行つていない

昭和32年ごろの我が家の一 日です。

父・母・兄は、

夏の野菜の出荷があるときは

たぶん午前3時ごろ

冬でも5時半ごろ起きて

「朝の間仕事」に出かけます。

母は、先に帰ってきて

朝ごはんを炊きます。

私は、麦ご飯の炊ける（焦げる）パチパチといつ音で日が覚めます。
私が起きると

母は、私を寝巻きから毎の着物に着替えをしてくれます。

それから「ちょうづ」を使います。

上方落語のねたにもなっている

「ちょうづ」とは朝に顔を

洗うことです。

アルミの「かなだらい」に水を汲んで
使います。

厳寒のときはお湯を母は入れてくれます。

歯も磨きます。

歯ブラシはたぶん木でできていたような気がします。

歯ブラシに水をつけて

歯磨き粉をつけて磨きます。

こう書けば今と変わらないと読者の方はお思いになられると思いま
す。

しかし今は「歯磨き粉」ではなく「練り歯磨き」です。

当時は箱に入った歯磨き粉を使っていましたから

歯ブラシを濡らさないと粉が付いてきません。

「歯ブラシに水をつけて歯磨き粉を使つ」と言つ語法は昔の名残ですね。

私は現在は「水をつけずに練り歯磨きで」1日に6回以上磨いています。

皆様はどうのう今は表現していますか

そのような些細なこと気にも留めませんよね。

我が家の一 日 その2

7時過ぎになると父と兄が帰ってきて足を洗つて「ちょづ」を使います。

私は

朝はじめて父母兄に会つたときはわかるような大きな声で

「おはよづじざいます」

と言わなければなりません。

台所の板間に置いてある

丸いお膳に座ります。

普通は、「ちやぶだい」と言われるものです。

また別に機会にいいますが、

お膳とちやぶだいは、違いますよね。

でも我が家では、お膳と言つていました。

このお膳には、中央に四角い穴が開いていて蓋があります。

ここに「かんでき」(ひちりんのことです)を入れてすき焼きをするのです。

普通は、すき焼きなど絶対にしませんから
そこの蓋が取られるのを見たことはありません。
家族全員が揃わない

食べ始めることはできません。

朝のメニューは麦ご飯と野菜の味噌汁・季節のお漬物です。
みんな揃つと父が「頂きます」と言つと
ほかの者も「いただきます」と続きます。

食べ始めると「おかわり」「おしゃりゅう」などの
言葉以外の言葉はありません。

ただモクモクと食べます。

ほかの事を言つと

本当に「ちやぶ台返し」があるので言えません。
どのくらいの量を食べるかと言つと

兄はどんどんぶり鉢で3から5杯くらいです。

父母もそれより少し少ないくらい

5歳の私も麦ご飯をお茶碗に3杯くらいです。
それから口と詰まれたお漬物はなくなります。

父は少し卑近ですが

「早飯 早くそ も 韻のうち」

と言つて早く食べることを勧めていました。

父が食べ終わつてから まもなくみんなも終わります。

みんなが「じちそうさま」と言つた後は、
しゃべつてもいいのですが、

あまり父と話した覚えはありません。

しばらくお膳で一服します。

だからと言つて横になることはできません。

父の「作業」の号令があると、全員お膳を離れて
仕事に行きます。

この時代は、歯磨きは、朝起きたときのみです。

この時代は歯磨き一回ですよ。
歯をこねただけでした。

その3 その4

我が家の一 日 その3

姉が学校に行って

父と兄が仕事に行きます。

母は、朝ごはんの後片付けと匂いはんの用意をした後洗濯をするために近くの川へ行きます。

その川は、大川と呼ばれる「おおゆぐみ（大井組）」水路の本流です。

家から100mぐらい離れています。

それから、飲み水を200m離れた井戸に汲みに行きます。我が家のがい水が出ないので、村で空き家になっていた井戸まで行くのです。

今考えれば大変なことです。

いろいろな家事を片付けた後農仕事に出かけます。

そのとき母は、私に「本当にえい子やね。」

（えい子は、よい子のこと）
と言います。

「お前がひとりで遊んでくれるから助かるわ」と続けます。
そう言わると忙しい母に無理は言えませんので
家でひとり遊びすることになります。

天気がよいときは、「かど」で遊びます。

「かど」とは、この場合は庭のことです。

また縁側に干してある布団の上でも遊びます。
雨の日はもちろん家中です。

おもちゃもないし、10時になつても
おやつはありません。

どのような遊びをしたかよく覚えていません。

皆様覚えておられますか。

子供の頃の遊びを

食事のことなんかはよく覚えているのに
記憶が欠落しているのです。

我が家の一 日 その4

昼前になると急いで母が帰ってきます。
昼ごはんの用意です。

麦ご飯を炊くのは朝だけで

昼夜は、おひつに入れて置いておきます。
(おひつは、蓋のある木で作った桶です。)

昼ごはんのメニューは

麦ご飯 季節の野菜の煮物 季節の野菜です。
村に昼を知らせるサイレンが鳴ると

父と兄が帰ってきます。

足を洗つて、それから汗をぬれた手ぬぐいでぬぐつてお膳に座ります。

もちろん食事のマナーは朝と同じです。

ここで野菜の煮物について誤解のないよう言つておきます。

我が家でとれる野菜のことですのです。
種類は豊富ではありません。

キャベツ・白菜・大根・かぶら・人参・菜つ葉
きぬわや・かぼちゃなどです。

それに大豆が少々です。

皆様なら例えばキャベツの煮物を作ります。

油とか出汁とか油揚げとか使つと思ひます。

当時は、本当に儉約家でしたから
そのようなものは使いません。

キャベツに水を入れて炊き
しょう油で味付けするだけです。

どのようなものもこの味付けですから
皆様が思つておられるほど美味しくはありません。
もちろん母は、その後の料理は、
だしなどを使いましたから美味しかったです。

昔は、皆様方もそうですね。
我が家だけですか。

でもお腹いっぱい食べられて幸せでした。

その5 その6

我が家の一 日 その5

昼(じ)はんが終わると夏場でしたら、
昼寝をします。

早朝から働いているのですから
当然です。

涼しい場所を思い思に選んで寝ます。
たぶん30分か もう少し少ない間と思います。
この間がとてもなく私にはつらい長い時間です。
私は一日中一服していますから
眠たくはありません。

だからと言つて起きていると
鉄拳が飛んできますので
じつと横になっています。

父の田が覚め「作業」と言つて
私の苦行は終わりです。

昼寝の季節でない場合でも
昼休みは一時間ぐらいです。
父と兄は出かけます。
母は、家事をして出かけます。
また同じように言つて
出かけていくと
私は、一人遊びです。

3時になると

母が帰つてくることがあります。

3時のおやつにサツマイモを

ふかしに帰つてくるのです。

母が帰つてくると

三時のおやつがあるので

うれしかったです。

それから3時じろか4時じろになると
四つ年上の姉が小学校から帰つてきます。
でも私の記憶の中では
姉は勉強ばかりしていて
私と遊んだ覚えがありません。
そんなことありませんよね。
お姉さんじめんなさい。

夕暮れになるとなんとなく物悲しくなりますよね。
皆様はどうですか。

我が家から見える六甲の夕日を思ひ出すと
なんとなくつらくなります。

我が家の一 日 その 6

夕方近くなると母が帰つてきます。
夕ご飯の支度です。
忙しく土間を行つたりきたりします。
またお風呂に川から水を運びます。
小さい五右衛門風呂ですが、何回も運ばないと
いっぱいになりますん。
それから、わらを燃やして
暖めます。
これが大変です。

木と違つて稻わらは、すぐ消えてしまつますので

丸めてくべなければなりません。

わらをくべつつ魚を焼いたりします。

大変ですよね。

普通は暗くなるまで父と兄は家へは
帰ってきません。

帰つてくると夏でしたらお風呂に入つて
汗を流してから食事につきます。

一番風呂は必ず父と決まっています。

2番風呂はもちろん兄でその後子供が入つた後
しまい風呂は、母です。

夕食のメニューは、麦ご飯・魚の焼き物・季節の野菜の煮物です。

それから、父と兄にはもう一品つきます。

たいしたものでなかつたような気もしますが

余分に付くのが当たり前です。

父や兄は家では来客がない限り

お酒は、飲みません。

父はその後すぐに病気になつたのでわかりませんが、

兄はお酒は好きな方でした。

僕約家のなせる技ですね。

皆様のお家はどうですか。
お酒飲されましたか

私は、この影響かどうかわかりませんが
お酒は、大嫌いです。

でも病気がちですが、・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2801c/>

貧しかったけど幸せだった昭和30年代初めの頃のわが家の一日
2010年10月10日12時17分発行